

## I-HDF の経済性について

長崎腎クリニック 長崎腎病院

○赤峰太一 橋口純一郎 田中健 矢野利幸 高木伴幸 澤瀬健次 原田孝司 船越哲

### 【背景】

I-HDF は、逆濾過透析液補充による膜性能維持や循環動態の安定に優れている HDF 療法であるが、ランニングコスト等を含めた経済性についての報告は少ない。

### 【目的】

今回、I-HDF における臨床効果を再確認するとともに、その経済性について検討した。

### 【対象】

外来透析患者 14 名（男 8 名、女 6 名、平均年齢  $61 \pm 22$  歳）

### 【方法】

HD から I-HDF へ変更し、血圧や処置回数から臨床効果を検討し、機器のランニングコストと診療報酬等から I-HDF における経済性について検討を行った。

### 【結果】

血圧変化率や処置回数に関しては有意な低下が認められた。また、機器のランニングコストが、約 20.6 万円/台/年必要となったが、診療報酬や材料費を換算すると 64.1 万円/人/年の増収となった。

### 【考察】

今回、HD から I-HDF への変更においては、従来の報告通り循環動態の安定性が得られ、また施設側にも経済的メリットも見込まれることから、I-HDF は現段階では患者・施設側双方に有益な療法の一つと思われる。